

日本気象学会 2010年度春季大会

会期：2010年5月23日（日）～26日（水）

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）

大会実行委員会担当機関：気象庁

大会委員長：羽鳥光彦（気象庁予報部）

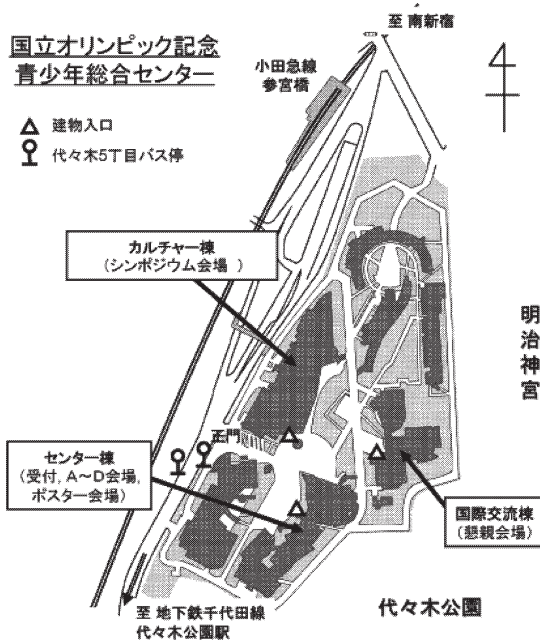
当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（405会議室：センター棟 4F）

TEL 080-3396-6719（大会期間中のみ有効）

※大会参加者への伝言は、受付付近の掲示板上に掲示します。

取り次ぎはいたしませんのでご承知おき願います。

会場案内図



[交通手段]

○小田急線：

「参宮橋」駅下車 徒歩7分

○地下鉄千代田線：

「代々木公園」駅下車 徒歩10分

○京王バス：

1. 新宿駅西口16番より「代々木5丁目」下車

2. 渋谷駅西口14番より「代々木5丁目」下車

大会行事予定

A会場 : セミナーホール417 (センター棟 4F) , 総会・記念講演・シンポジウム: 大ホール (カルチャー棟)
 ただし, 5月26日 (水) 午後は309会議室
 (センター棟 3F)
 B会場 : 101会議室 (センター棟 1F) 受付 : 416会議室 (センター棟 4F)
 C会場 : 102会議室 (センター棟 1F) 大会事務局 : 405会議室 (センター棟 4F)
 D会場 : 501会議室 (センター棟 5F) 懇親会 : レセプションルーム (国際交流棟)
 ポスター会場: 401・402会議室 (センター棟 4F)

		A会場	B会場	C会場	D会場
5月 23日 (日)	10:00～ 11:30	大気海洋相互作用 (6, A101～A106)	気候システムI (6, B101～B106)	気象予報 (6, C101～C106)	観測手法 (5, D101～D105)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P101～P133)			
	13:30～ 17:00	公開気象講演会 「防災情報の活かしか方 を考える」	専門分科会 (9, B151～B159) 「気象・気候に対する 山岳の影響」	専門分科会 (7, C151～C157) 「様々な時間スケール でのデータ同化とア ンサンブル予測」	熱帯大気 (16, D151～D166)
5月 24日 (月)	09:30～ 11:30	降水システムI (9, A201～A209)	気候システムII (9, B201～B209)	台風 (9, C201～C209)	物質循環I (9, D201～D209)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P201～P233)			
	13:30～ 15:20	総会			
	15:30～ 17:30	学会賞・藤原賞受賞記念講演			
	18:15～ 20:15	懇親会			
5月 25日 (火)	09:30～ 11:30	降水システムII (9, A301～A309)	気候システムIII (9, B301～B309)	雲放射 (6, C301～C306)	物質循環II (9, D301～D309)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P301～P333)			
	13:30～ 17:00	シンポジウム「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」			
5月 26日 (水)	09:30～ 11:30	降水システムIII (9, A401～A409)	気候システムIV (9, B401～B409)	大気境界層I (8, C401～C408)	大気力学 (8, D401～D408)
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (33, P401～P433)			
	13:30～ 15:00	降水システムIV (5, A451～A455)	気候システムV (6, B451～B456)	大気境界層II (6, C451～C456)	中層大気 (5, D451～D455)

発表件数: 312件 (専門分科会16, 口頭発表164, ポスター132)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には, 日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は, 利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは, 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail: kouenrikaku2010s@metsoc.jp) まで。

講演の方法

一般口頭発表・専門分科会

- ・ 一般口頭発表の講演1件あたりの持ち時間は13分（講演10分・質疑3分）です。
- ・ 専門分科会の各講演の持ち時間は分科会毎に決められています。詳細は各分科会のプログラムをご覧ください。
- ・ 講演にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- ・ 止むを得ない事情で使用機器が講演申込時に予め届け出ていた機器と異なる場合は、セッション開始前までに座長と会場係にその旨を申し出て下さい。
- ・ PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
 - ✓ パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
 - ✓ セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、セッション開始前に会場係に申し出て下さい。
 - ✓ 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応することが

あります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようにお願いします。

ポスター発表

- ・ 講演者はポスターに表題と著者名を明記して下さい。
- ・ ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦150 cm×横180 cmとなっています。
- ・ ポスターを掲示する際には画鋏をお使い下さい。テープは使用することができません。必要な画鋏は講演者自身でご用意下さい。
- ・ ポスターの掲示可能時間は大会第1～3日目は9:30-16:30、大会第4日目は9:30-16:00となっています。会場の都合上時間厳守をお願いします。
- ・ ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。
- ・ ポスター会場では電源は使用できません。

シンポジウム「災害軽減に向けたシビア現象予測の将来」

日時：大会第3日（5月25日）13:30～17:00

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

司会：隈 健一（気象庁予報部数値予報課）

趣旨：

近年、大雨や竜巻等の突風による被害が相次いでおり、大雨等の災害を軽減するための確かな情報の提供が必要である。このため、気象庁では、平成22年の出水期から、市町村を対象とする注警報の発表、突風、雷、強雨に関する業務の充実に努めることとしている。これらの災害は、積乱雲がマルチセルまたはスーパーセルとなった場合に発生することが多いが、リードタイムを確保した予測精度にはまだまだ大きな課題がある。今後、予測精度の向上に向けて気象学の英知を集めて取り組む一方、現状の予測技術の範囲内で災害の軽減に効果的な情報のあり方についても検討していく必要がある。今回のシンポジウムでは、シビア現象予測に関する現状の取り組み状況の報告、予測技術の今後の展開、情報の利用面からの予測情報のあり方について講演、討論を行うこととする。

基調講演：

- 1) 「豪雨等予測の現状と取り組み」
永田 雅（気象庁予報部業務課）
- 2) 「シビア現象の理解・予測にむけた課題と期待」
新野 宏（東京大学大気海洋研究所）
- 3) 「豪雨災害軽減にむけた予測情報」
中北 英一（京都大学防災研究所）

パネル討論・総合討論

総 会

日時：大会第2日（5月24日）13:30～15:20

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター 大ホール（カルチャー棟）

議事次第

- | | |
|---|------------------------|
| 1. 開会 | (3) 2009年度収支決算報告 |
| 2. 議長選出 | (4) 2009年度監査報告 |
| 3. 理事長挨拶 | (5) 日本気象学会第36期役員選任について |
| 4. 2010年度学会賞授与 | (6) 2010年度事業計画案 |
| 5. 2010年度藤原賞授与 | (7) 2010年度収支予算案 |
| 6. 議事 | (8) その他 |
| (1) 支部会計の本部会計への統合に伴う2008年度
収支決算報告の修正について | 7. 議長解任 |
| (2) 2009年度事業報告 | 8. 閉会 |

専門分科会の概要紹介

2010年度春季大会では下記の通り、2件の専門分科会が開かれます。

気象・気候に対する山岳の影響

日時：大会第1日（5月23日）13:30～17:00

場所：B会場

趣旨：山岳域は、空間スケールや広域循環場などに応じ、気象に対して様々な影響を及ぼす。従来から、これらの影響はメソ・総観規模・半球規模といったスケールに区分されて議論されがちである。しかし、熱力学的作用はスケール間で連動し、発現する時間スケールも準定常的な気候形成から突発的現象まで様々である。本セッションでは、筑波山スケールからチベット高原スケールまで、様々な地域における様々な空間スケールで山岳の影響を受けた気象・気候に関する研究成果を持ち寄り、空間・時間を横断するメカニズムの認識や今後の気候変化に対する山岳域の果たす役割を議論する事を目的とする。

コッパナー：上野健一（筑波大学生命環境科学研究科）、里村雄彦（京都大学大学院理学研究科）、余 偉明（東北大学大学院理学研究科）

様々な時間スケールでのデータ同化とアンサンブル予測

日時：大会第1日（5月23日）13:30～17:00

場所：C会場

趣旨：近年、情報科学やコンピューター技術の急速な発展を背景として、より精度の高い初期値を作成するデータ同化技術や、初期値や数値モデルに含まれる不確実性を考慮するアンサンブル技術の開発が盛んに行われている。これらの技術は、現業数値予報センターにおけるメソ短期予報、全球中期予報、季節予報のみならず、地球温暖化予測研究においても欠かすことのできない技術となりつつある。本分科会では、招待講演者にデータ同化技術とアンサンブル技術に関連する話題を提供してもらい、数日、週間から季節、地球温暖化に渡る幅広い時間スケールの予報/予測を横断的に見渡し、様々な時間スケールでの予測に必要な知見や技術は何かを考える機会としたい。

コッパナー：松枝未遠（地球科学技術総合推進機構/気象庁気象研究所）、中澤哲夫（気象庁気象研究所）、榎本 剛（海洋研究開発機構地球シミュレータセンター）、経田正幸（気象庁予報部数値予報課）、新保明彦（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

公開気象講演会のお知らせ

※公開気象講演会への参加は無料・事前の申込も不要です。

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）13:30～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
セミナーホール417（センター棟 4F）（大会A会場）

テーマ：「防災情報の活かし方を考える」

主催：社団法人 日本気象学会

教育と普及委員会・気象災害委員会

後援：一般社団法人 日本気象予報士会

趣旨：日本気象学会2010年度春季大会の開催に合わせて、一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果や気象情報の利用についてわかりやすく解説することを目的

とした公開気象講演会を開催します。今回は、防災情報が一般市民に届く間に介在する様々な立場の方から講演していただきます。主に気象庁から出される防災情報は、報道や地方自治体による情報伝達を経て、防災関係機関の活動や住民の避難行動等に結び付くことが求められています。そこで、今回の講演会では、防災の第一線で活躍されている方々から、防災気象情報の発信元としての気象庁、報道、地方自治体、災害教育・評価の四者の視点から、一般の方々にも分かりやすい内容でお話していただきます。また、初の試みとして、講演後にパネ

ルディスカッションを行い、講演者をパネラーとして、会場の方々と共に議論を深めてまいります。奮ってのご参加をお願いします。

テーマおよび講演者：

1. 「防災気象情報のねらいと展開
～情報を作成発信する気象庁の立場から～」
気象庁予報部業務課気象防災情報調整官
弟子丸 卓也氏
2. 「テレビ報道と防災気象情報」

日本テレビ報道局報道番組部 谷原 和憲氏
3. 「防災気象情報を受け取る市町村の現場では」
宇部市役所防災危機管理課 弘中 秀治氏
4. 「防災情報が有効に活かされるために
～求められる住民の内発的な自助意識～」
群馬大学教授 片田 敏孝氏
問い合わせ先：浅野 準一（気象大学校）
TEL: 04-7144-7185（内線 222）
E-mail: jasano@mc-jma.go.jp

大気科学の将来展望と若手研究者問題に関する第2回検討会のお知らせ

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日） 17:30～20:00
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター セミナー
ホール417（センター棟 4F）（大会A会場）
趣旨：昨年引き続き、日本気象学会と日本学術会議地球惑星科学委員会 IAMAS 小委員会は共同で、近年深刻さを増している若手研究者に関する問題と将来展望を議論する会合を、春季大会に合わせて上記の通り開催します。第2回目に当たる今回のテーマは、博士号取得者の民間企業への就職です。会合では、複数の企業の方々から、気象・環境関係も含めどんな内容の仕事があり、博士号取得者にどのような人材や能力を求めているのかについて具体的にご紹介して頂きます。これに関連して、就職コンサルタン

トの方からも博士号取得者の就職についてコメントして頂く他、人材情報提供を手掛けている科学技術振興機構の方からもその活動についてご紹介頂く予定です。これらの講演を受けて、民間企業で博士号取得者が積極的にその能力を発揮できる機会を増やすには、個人・企業・学会・大学において、どのような取組みや意識改革が求められるかについて、参加者全員で議論したいと考えています。なお、会合のプログラムについては、大会前までに気象学会ホームページに掲載します。若手研究者や大学院生の皆さんの積極的な参加を期待しています。
コンピーナー：中島映至，中村 尚，青木周司，河村公隆，里村雄彦，中根英昭，村上正隆，遊馬芳雄

研究会のお知らせ

何れも参加は無料・事前の申込も不要ですので、興味のある方はご自由にご参加下さい。

第33回メソ気象研究会

日時：2010年5月22日（土）（大会前日）13:30～17:00
場所：気象庁講堂（東京都千代田区大手町1-3-4）
テーマ：「冬季のメソ擾乱とそれともなうストーム」
コンピーナー：大東忠保（名大地球水循環）
内容：冬季、総観規模低気圧の影響を受けた場の中で発生するメソ擾乱は、雪と風を集中させストームを引き起こします。1963年～1967年の気象庁北陸豪雪特別観測によって本格的に始められた日本における冬季のメソ擾乱の研究は、衛星やレーダーなどの観測測器の充実と、数値モデルの高精度化によって進展し、多くの現象の発見と理解の体系化が行われてきました。ここ10年ほどの大規模かつ高解像度のシミュレーションからは、古くから存在が知られていたポーラーロウや日本海寒帯気団収束帯に関する研究で、その構造や形成メカニズムの理解に大きな進展がありました。一方、近年の詳細観測からは新たなメソ擾乱が認識され、数値シミュレーションによる研究と合わせて形成メカニズムが理解されつつあります。今回のメソ気象研究会ではこれら冬季のメソ擾乱とそれともなうストームについて、観測・シミュレーションの両方から最新の話題をとりあげます。時間を十分にとってまとまった話をさせていただく予定ですので、多くの方々に参加いただき理解を深めていただくとともに、活発な議論をお願いいたします。

プログラム：

1. 趣旨説明

2. 「日本海寒帯気団収束帯に伴う直交型筋状雲の構造と発生機構」 永戸久喜（気象研）
3. 「オホーツク海沿岸帯状雲の成因と構造」 藤吉康志（北大低温研）
4. 「北陸海岸部に沿って停滞する線状降雪帯の形成機構」 岡本宏樹（名大地球水循環）
5. 「ポーラーロウの理想化実験」 柳瀬 亘（東大大気海洋研）
6. 「日本海側で冬季に突風をもたらすじょう乱の観測」 楠 研一（気象研）
7. 「グリーンランド南端で東風中に生じるtip jetの形成メカニズム」 大東忠保（名大地球水循環）
8. 総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研）、小倉義光（東大大気海洋研）

連絡先：大東忠保（名大地球水循環）

E-mail：ohigashi@rain.hyarc.nagoya-u.ac.jp

注意事項：自家用車での来庁はご遠慮下さい。当日は閉庁日ですので、正面玄関（KKR東京側）のみ開いています。研究会の受付で名札を受け取り、着用して下さい。

第8回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）18:00～20:00
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 101会議室（大会B会場）
内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中

心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を主な研究対象とし、以下の目的により活動を行っています。

＊陸域圏における物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換

＊陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明

＊直接観測、間接観測、およびモデリングの融合

＊空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決

＊正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発

＊それらのための研究協力関係の構築

今回は、衛星リモートセンシングデータ利用による陸域植生情報抽出に関する研究に焦点をあて、3名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者および講演題目（敬称略）：

曾山典子（天理大学）

「全球土地被覆分類システム構築上の問題点」

福江潔也（東海大学）

「GCOM-C1 土地被覆プロダクトを想定した分類アルゴリズムの開発」

古海 忍（奈良佐保短期大学）

「植生指標への意味づけと多波長データを用いた植生指標セットの提案に向けて」

世話人：馬淵和雄（気象研），大谷義一（森林総研），奈佐原顕郎（筑波大），伊藤昭彦（国環研），佐藤 永（名古屋大），大石龍太（CCSR）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8722，FAX：029-853-8728

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

気象教育懇談会

日時：2010年5月23日（日）（大会第1日）17:30～2時間程度

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 102会議室（大会C会場）

テーマ：「地球温暖化をどう教えるか」

内容：いまや「地球温暖化」「リサイクル」「二酸化炭素（CO₂）」といった言葉は、多くの子どもたちにとってよく聞く言葉となっており、教師だけでなく気象キャスターや研究者たちによる出前授業なども活発に行われています。その一方で、気候変動や地球温暖化問題における不確実性や未解明な点をどのように伝えたいのかという問題が依然としてありますし、また、現状の教育が原因であるかどうかは不明ですが、子どもたちが将来へ過剰な不安感を抱いているとの指摘もあります。今回の気象教育懇談会では、専門家と高校生の双方を対象としたアンケート結果など、最新の活動状況を報告します。また、参加者全体で、現状の地球温暖化教育における悩み、問題点などについて情報共有を図るとともに、実際に行われている具体的な教案などについて意見交換を行いたいと考えています。教育関係者に限らず、地球温暖化に関わる多くの研究者のご参加をお待ちしております。

世話人：石原幸司（気象研），宮下 敦（成蹊高校），畠山正恒（聖光学院）

問い合わせ先：石原幸司（気象研究所気候研究部）

TEL：029-852-9046

E-mail：kishihar@mri-jma.go.jp

極域・寒冷域研究連絡会

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日）17:15～2時間程度

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 101会議室（大会B会場）

話題：

1. 新しい南極観測体制と第VIII期重点観測計画

「南極域から探る地球温暖化」

山内 恭（国立極地研究所）

コメント：「しらせの観測設備概要」

橋田 元（国立極地研究所）

2. 「冬季東アジアモンスーンの変動要因を探る」

川村隆一（富山大学大学院理工学研究部）

コメント：「2009/2010の冬を振り返る」

本田明治（新潟大学自然科学）

前半は南極観測と「しらせ」に関する特集です。今期（2009/10年）、新しい南極観測船「しらせ」の南極への初航海となりました。新「しらせ」では観測隊に関連する乗船定員が増え、学校の先生が南極から授業を行うなど新しい活動が加わりました。また、今年出発する第52次観測隊からは、毎年の公募に基づく速効性のある観測・実験活動が南極域で行えるようになります。数年前からの隊員資格の緩和を含めて、これから先、南極観測に関心のある研究者がどう関われるのか、そして、今後の改善点を議論したいと思います。

後半は、2009/2010年の冬に関する講演及び自由討論を行います。2009/2010年の冬は、12月中旬から1月上旬にかけて寒く、日本海側を中心に大雪にも見舞われました。極域や熱帯などいろいろな角度からその原因を探り、「平成18年豪雪」などとの比較を通じて、大気循環や気候変動の一般的な理解を深める機会にしたいと考えています。当日、飛び入りでの話題提供も歓迎いたしますので、たくさんの方のご参加をお待ちしています。

問い合わせ先：猪上 淳（JAMSTEC）

TEL：046-867-9483，FAX：046-867-9455

E-mail：jun.inoue@jamstec.go.jp

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl_index

第5回地球観測衛星研究連絡会

日時：2010年5月25日（火）（大会第3日）17:30～19:30

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟1F 102会議室（大会C会場）

テーマ：「衛星リモートセンシングにおける地上/航空機観測の役割」

内容：第5回目の地球観測衛星研究連絡会では、衛星リモートセンシングにおける必須研究項目である地上及び航空機検証観測に注目した議論を行います。検証観測の実際やリモートセンシングへの応用手法について自由に議論を行い、衛星解析と地上観測の相互理解を深めることが主な目的です。グローバルな衛星観測とシャープな地上観測をどのように組み合わせればよいのか、という点に議論が発展していくことを期待しています。今回は地上と航空機観測で活躍されている研究者の方々を話題提供者にお迎えいたしました。どなたでも自由に議論に参加していただけますので、是非ご参加下さい。

話題提供者（予定）：

千葉大学環境リモートセンシング研究センター 高村民雄

「SKYNET雲・エアロソル観測ネットワークと衛星計測検証」

気象研究所 内山明博

「航空機観測による検証観測」

情報通信研究機構 大野裕一

「衛星搭載雲・降水レーダの地上検証について」

国立環境研究所 内野 修

「GOSAT検証戦略と初期検証結果」

世話人：早坂忠裕（東北大）、中島 孝（東海大）、高橋暢宏（NICT）、日暮明子（NIES）、塩谷雅人（京大）

連絡先：中島 孝（東海大学情報技術センター）

TEL:03-3467-2211(内線363)

E-mail:nkjm@yoyogi.ycc.u-tokai.ac.jp

気象学会と気象庁との連携強化に関するフォーラムのお知らせ

日時：2010年5月26日（水）（大会第4日） 15:00～17:00

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟3F 309会議室（大会A会場）

主催：気象研究コンソーシアム（気象学会，気象庁）

趣旨：数値モデルは気象庁の気象予報サービスを支える根幹であるとともに，気候，海洋，環境分野の研究・開発も支える基盤技術となっています。天気予報・防災はも

とより環境や産業分野での利用においても正確・詳細な気象情報が求められるなか，高度にシステム化した数値モデル技術を更に発展させていくためには，気象学会を通じて大学や研究機関と気象庁との連携を深めることがこれまで以上に重要となっています。気象庁で現業利用されている数値モデルやデータは，大学や研究機関においても気象庁との共同研究によりこれまで連携し利用されてきているところですが，基礎研究から応用分野にわたる幅広い分野でのより実践的な研究・教育の推進にはさらなる連携の強化が望まれます。

本フォーラムでは，気象学会を通して大学・研究機関と気象庁とがより密接なまた幅広い連携を進めていくため，現状と課題についての話題提供を受けて議論を行いたいと考えています。

プログラム：

1. 気象学会と気象庁の連携の現状
2. 気象庁現業数値予報モデル（全球モデル，メソモデル，データ同化）開発の現状と課題
3. 大学での実践的研究・教育における現状と課題
4. 気象学会と気象庁との更なる連携強化に向けた総合討議

問い合わせ先：気象庁総務部企画課 里田弘志

TEL：03-3212-8341（内線 2227）

E-mail：satoda@met.kishou.go.jp

大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では，大会期間中の保育施設として，次の施設を紹介致します。

- ・セルリアンタワーポピンズキッズルーム

〒150-0031 東京都 渋谷区桜ヶ丘 26-1

セルリアンタワー東急ホテル 3F

TEL: 03-5728-1377, FAX: 03-5728-1377

URL: <http://www.poppins.co.jp/room/detail/70>

利用可能時間：08:00～23:00

アクセス：渋谷駅から徒歩約5分

利用料金は10:00～20:00の時間帯は2,625円/1時間，それ以外の時間帯は3,150円/1時間です。（2名以上の兄弟・姉妹の場合割引あり）

大会実行委員会では，利用料金の一部を補助する予定です。上記の施設，及びそれ以外の保育施設の利用等，保育支援をご希望される方は，2010年4月23日（金）までに下記担当者までご連絡ください。また，それ以外のお問い合わせにもできる限り対応致しますので，ご連絡をお願いします。

連絡先：平井雅之（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

E-mail：m-hirai@met.kishou.go.jp

TEL：03-3212-8341（内線 4834）

秋季大会の予告

2010年度秋季大会は，2010年10月27日（水）～29日（金）に京都テルサで開催される予定です。

大会第1日 [5月23日(日)] 10:00~11:30 一般口頭発表

A 会場

大気海洋相互作用

座長：立花 義裕（三重大生物資源）

- A101 今田 由紀子（東大気候システム）太平洋における熱帯不安定波の大気応答が大規模場を与える影響
- A102 小川 史明（東大院理）中緯度SST勾配が対流圏東西流と移動性擾乱の平均状態に与える影響
- A103 見延 庄士郎（北大院理）湾流に対する大気応答の浅い加熱モードと深い加熱モード(II)
- A104 高玉 孝平（北大院理）領域大気モデル中の境界層全層における湾流に対する大気応答のメカニズム
- A105 西川 はつみ（三重大生物資源）ラジオゾンデで観測された千島列島周辺の激しいSST勾配が駆動する大気循環
- A106 見延 庄士郎（北大院理）北太平洋における2000年代の十年スケール変動

B 会場

気候システムI

座長：保坂 征宏（気象研）

- B101 伊賀 晋一（JAMSTEC）NICAM 新コードを用いた全球水惑星実験
- B102 森 正人（東大気候システム）大気海洋結合モデルMIROCに見られるPDO ～中緯度固有モード～
- B103 庭野 匡思（気象研）積雪変態・アルベドプロセス（SMAP）モデル
- B104 青木 輝夫（気象研）積雪アルベド物理モデルによる積雪内部の短波放射吸収量の計算精度
- B105 保坂 征宏（気象研）陸面モデルHALへの積雪変態・アルベドプロセスモデルSMAPの導入
- B106 渡辺 真吾（JAMSTEC）GCMにおけるLAI予報の有無が北半球冬季気候場に与える影響

大会第1日 [5月23日(日)] 10:00~11:30 一般口頭発表

C 会場

気象予報

座長 : 石橋 俊之(気象庁数値予報)

- C101 清水 慎吾 (防災科研) 2009年10月8日に茨城県で突風災害を起こしたレインバンドに関するデータ同化・予測実験 -6台のX-bandレーダデータのインパクト-
- C102 川畑 拓矢 (気象研) GPSによる水蒸気情報同化手法の高度化
- C103 青梨 和正 (気象研) Displaced Ensembleを用いたMWI TBの変分法的同化法: 台風200404への適用結果
- C104 石橋 俊之 (気象庁数値予報) 誤差共分散行列の最適化と観測データのインパクト評価について
- C105 原 昌弘 (気象研) ローパスフィルターを用いた全球SV法メソアンサンブル
- C106 松枝 未遠 (AESTO/気象研) TIGGEデータでみるヨーロッパ-大西洋領域の天候レジームの予測可能性

D 会場

観測手法

座長 : 東 邦昭 (京大生存基盤科学研究ユニット)

- D101 小野木 茂 (気象研) 汎用デジタルカメラを使用したPIV撮影装置(2報)
- D102 小司 禎教 (気象研) 室戸沖GPS津波計を用いた天頂遅延量解析実験
- D103 吉川 栄一 (阪大院工) 気象用Ku帯広帯域レーダネットワークにおける確率論的降雨減衰補正手法
- D104 大東 雄二 (三菱電機特機システム) FMCW型Ka-bandレーダによるドップラー観測ほか
- D105 東 邦昭 (京大生存基盤) ウインドプロファイラを用いた大気境界層の観測

大会第1日 [5月23日(日)] 13:30~17:00 専門分科会

B 会場

「気象・気候に対する山岳の影響」

趣旨説明：上野 健一(筑波大院生命環境)

座長：余 偉明(東北大院理)

- B151 植田 宏昭(筑波大院生命環境) 筑波山の東西南北4斜面における通年観測から見えてきたもの
- B152 中津留 高広(筑波大院生命環境) 過去100年間における筑波山山頂の気温と風の変化
- B153 沢田 雅洋(東北大院理) 蔵王風下で観測された非定常な風に関する数値実験
- B154 稲村 友彦(首都大都市環境) 局地風「まつぼり風」の吹走メカニズム -阿蘇山の地形効果に着目して-
- B155 木村 富士男(筑波大院生命環境) 晴天日の非断熱加熱による山岳風下における昇温効果

総合討論1

休憩

座長：里村 雄彦(京大院理)

- B156 植田 宏昭(筑波大院生命環境) モンスーンの形成と変動における山岳と陸面の役割
- B157 杉本 志織(筑波大院生命環境) チベット高原東部のメソ対流系形成に対する陸面過程と中緯度波動活動の影響
- B158 上野 健一(筑波大院生命環境) トラフ通過時の四川盆地周辺におけるMCSの発生過程
- B159 村上 茂教(気象研) 氷期気候系における局所エネルギー収支とエネルギー流束

総合討論2

※各講演の持ち時間は質疑を含めて20分です。

大会第1日〔5月23日(日)〕 13:30~17:00 専門分科会

C 会場

「様々な時間スケールでのデータ同化とアンサンブル予測」

趣旨説明：松枝 未遠(AESTO/気象研)

座長：松枝 未遠 (AESTO/気象研)

C151 山根 省三 (同志社大) 数値予報の様々な不確実性とアンサンブル手法

C152 斉藤 和雄 (気象研) メソアンサンブル予報と次世代スパコン戦略プログラム

座長：経田 正幸(気象庁数値予報)

C153 谷口 博 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルによるサイクロン/台風発生の初期値アンサンブル実験

C154 中澤 哲夫 (気象研) TIGGE全球アンサンブルデータによる顕著現象発生ポテンシャル予測

休憩

座長：榎本 剛 (JAMSTEC)

C155 藤井 陽介 (気象研) 結合モデルと海洋観測データの統合 (準結合同化) による気候変動の再現

C156 木本 昌秀 (東大気候システム) 十年規模気候変動予測

C157 望月 崇 (JAMSTEC) アンサンブルデータ同化手法を用いた近未来気候変動予測実験

座長：中澤 哲夫(気象研)

総合討論

※各講演の持ち時間は質疑を含めて25分です。

大会第1日 [5月23日(日)] 13:30~17:00 一般口頭発表

D 会場

熱帯大気

座長：大内 和良 (JAMSTEC)

- D151 山岬 正紀 (JAMSTEC) マデン・ジュリアン振動の理解に向けて一静力学モデル (0.2度格子) による数値実験
- D152 大内 和良 (JAMSTEC) 全球雲解像モデルNICAMにおける熱帯大規模雲集団の起源 1. コールドプールの海洋混合層の役割
- D153 土屋 主税 (東大院理) 全球非静力学モデルデータの潜熱加熱のガウス基底関数による鉛直構造抽出
- D154 宮川 知己 (東大気候システム) 全球雲解像モデルNICAMによる2006年MJO事例再現実験におけるレインバンドに伴う運動量輸送効果
- D155 那須野 智江 (JAMSTEC) 全球非静力学モデルを用いた台風0806号 (Fengshen) 再現実験
- D156 吉崎 正憲 (JAMSTEC) 赤道域の海面水温が東西に変動する場合の水惑星実験
- D157 米山 邦夫 (JAMSTEC) インド洋における季節内変動に関する国際集中観測CINDY2011/DYNAMOについて
- D158 佐藤 尚毅 (東京学芸大自然) 暖水域を北進する季節内変動における大気海洋結合の役割

座長：千喜良 稔 (JAMSTEC)

- D159 増永 浩彦 (名大地球水循環) 東太平洋ITCZ の赤道非対称性：衛星観測に基づく再検討
- D160 廣田 渚郎 (東大気候システム) CMIP3マルチモデルにおけるダブルITCZ
- D161 千喜良 稔 (JAMSTEC) エントレインメント率が環境場に依存して鉛直変化する積雲対流スキーム
- D162 小石 和成 (京大生存研) 熱帯対流圏界面遷移層における水蒸気の変調と鉛直温度構造との関係
- D163 大塚 成徳 (京大院理) 熱帯対流圏中層に見られる湿潤層状構造の形成過程に関する数値実験
- D164 横山 千恵 (東大気候システム) 東部熱帯太平洋の浅い対流を伴う大気擾乱に関する研究
- D165 古澤 文江 (名大地球水循環) 1931-1939年のアマゾン産産業研究所気象観測データによる降雨特性の研究
- D166 康 アルム (京大防災研) インド亜大陸北東部における2007年と2008年の降水の比較

大会第2日 [5月24日(月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムI

座長 : 瀬戸 心太 (東大生産研)

- A201 渡邊 明 (福島大理工) 降雪量変動と筋状降雪雲の構造
- A202 岡本 宏樹 (名大地球水循環) 山陰から北陸沿岸に伸びる停滞性線状降雪帯の形成・維持メカニズム
- A203 永戸 久喜 (気象研) 日本海寒帯気団収束帯に伴う直交型筋状雲の発生機構
- A204 加藤 輝之 (気象研) 降雪予想に対する水平・鉛直解像度と乱流過程の依存性
- A205 中村 晃三 (JAMSTEC) 湿潤断熱仮温度減率を使った静的安定度の頻度分布
- A206 川村 拓也 (筑波大院生命環境) 冬季低気圧通過時に見られる冷気層の成因の解明
- A207 中井 専人 (防災科研) 長岡におけるZdrと卓越降雪粒子の変動
- A208 瀬戸 心太 (東大生産研) GPM/DPR降水リトリーバル標準アルゴリズムの開発(1)
- A209 牛尾 知雄 (阪大院工) 国際宇宙ステーションからの雷放電と高高度発光現象の観測(GLIMS)

大会第2日 [5月24日(月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

B 会場

気候システムII

座長 : 増田 耕一 (JAMSTEC)

- B201 加藤 内蔵進 (岡山大教育) 多降水日の出現状況や季節経過にも注目した20世紀の長崎における梅雨期の降水量の年々変動について (序報)
- B202 岩尾 航希 (熊本高専) 冬季日本周辺で起きる爆弾低気圧の長期変化
- B203 松尾 健一 (岡山大院教育) 日本付近における日々の総観場の出現傾向の冬から春への遷移 (序報)
- B204 永野 良紀 (日大文理) 日本の最高気温分布パターンとその要因—7月の例—
- B205 堤 之智 (青森地方気象台) 北日本での全天日射量と雲量の増加について
- B206 Prasamsa Singh (名大地球水循環) Diurnal variation of summer monsoon precipitation during active and break periods over the central India and southern Himalayan foothills
- B207 藤部 文昭 (気象研) 都市気温の長期変化率の風速・降水への依存性
- B208 谷貝 勇 (気象大) 地球温暖化が影響する日本の冷夏と暑夏について (その2) —これまでに分かっていたこと—
- B209 村上 英世 (東和大) 太陽光遮光装置による地球温暖化防止の基本特性

C 会場

台風

座長 : 村田 昭彦 (気象研)

- C201 横井 覚 (東大気候システム) 西太平洋における台風存在頻度の長期変化とその要因
- C202 村田 昭彦 (気象研) 高解像度非静力学モデルによる台風0814号の発生過程の解析
- C203 筆保 弘徳 (IPRC) 台風外部コア発達プロセス
- C204 益子 涉 (気象研) 気象庁NHMを用いた台風の数值シミュレーション
- C205 金田 幸恵 (AESTO) 水平解像度5km/2kmの非静力学モデルJMANHMを用いた非常に強いTCの発達に関する感度実験—特に境界層スキームに着目して
- C206 宮本 佳明 (京大院理) 発達した熱帯低気圧の海面フラックス有効半径
- C207 和田 章義 (気象研) 台風Hai-Tang(2005)の強度予測に対する波浪-海洋相互作用の役割
- C208 山下 浩史 (気象庁数值予報) 2008年台風第13号および熱帯低気圧のMTSAT-2ラビッドスキャンAMVを使用した気象庁現業解析予報システムによるインパクト実験
- C209 佐竹 祐哉 (北大院理) 隣接閉領域トラッキングによる台風トラック

大会第2日 [5月24日(月)] 9:30~11:30 一般口頭発表

D 会場

物質循環I

座長：石塚 正秀（香川大工）

- D201 五藤 大輔（東大気候システム） 全球エアロゾルモデルとAERONET観測網を用いたエアロゾル光学特性の比較研究
- D202 竹村 俊彦（九大応力研） 全球エアロゾルモデル相互比較プロジェクトAeroCom第2期実験準拠シミュレーション
- D203 川名 華織（名大院環境学） 2009年秋季に名古屋で観測されたエアロゾルのCCN活性
- D204 伊藤 彰記（JAMSTEC） 長距離輸送時における黄砂粒子中鉄イオン溶出過程に関するエアロゾル化学モデル解析
- D205 三上 正男（気象研） JADE IOP期間中の休耕農地における飛砂フラックスデータの作成
- D206 石塚 正秀（香川大工） JADE IOP期間中のOPCを用いた休耕農地におけるダストフラックスの観測
- D207 長田 和雄（名大院環境） 非水溶性粒子沈着量の水平分布と季節変化
- D208 神 慶孝（名大院環境） CALIPSOと地上設置ライダーで観測されたタクラマカン砂漠のダスト構造に関する研究
- D209 常松 展充（千葉大CEReS） 大気の温度傾度の将来変化が黄砂現象に及ぼす影響のシミュレーション

大会第3日 [5月25日(火)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムII

座長：岩崎 博之（群馬大教育）

- A301 岩崎 博之（群馬大教育） A-MeDAS データを用いた近年の強雨増加の地理的特徴
- A302 鶴沼 昂（高知大理） 気象庁降雨レーダーを用いた四国における線状降水帯の統計的研究
- A303 津口 裕茂（気象研） 集中豪雨事例の客観的な抽出方法について
- A304 高根 雄也（筑波大院生命環境） 関東平野内陸域における夏季高温現象の数値実験
- A305 石原 正仁（気象研） 3次元レーダーデータから見たある日の積乱雲群の統計的局面
- A306 栃本 英伍（九大院理） 梅雨前線帯の低気圧の発達過程と環境場（2）
- A307 木下 仁（福岡管区気象台） 2010年2月1日九州南部・奄美地方で発生した副振動について
- A308 山田 芳則（気象研） 激しい気象現象をもたらした積乱雲の内部構造の特徴
- A309 檜尾 守昭（気象大） 条件付き不安定な飽和傾圧大気におけるメソ対流の概略的性質の演繹的推測

B 会場

気候システムIII

座長：小坂 優（ハワイ大IPRC）

- B301 山浦 剛（熊大院自然） 梅雨前線西部域の経年変動におよぼす台風の影響
- B302 小坂 優（ハワイ大IPRC） 梅雨前線上の降水変動と大規模循環変動
- B303 小坂 優（ハワイ大IPRC） 夏季アジアジェット上の波状テレコネクションパターンの力学
- B304 田村 徹（東大院工） チベット高原付近上層昇温と夏季アジアモンスーン季節進行における対流加熱の役割
- B305 山崎 哲（九大院理） 渦と渦の相互作用によるブロッキング持続メカニズム
- B306 堀 正岳（JAMSTEC） 2009-2010 年冬季に発生した寒波事例の解析
- B307 田中 博（筑波大CCS） 記録的な2009/10年の寒波と北極振動の関係について
- B308 北畑 明華（筑波大院生命環境） 二つ玉低気圧（2004年1月18日の事例）の形成に対する日本列島の影響
- B309 カ石 國男（弘前大理工） ヒートアイランド・温暖化の原因となる夜間～早朝の熱煙滞留

大会第3日 [5月25日(火)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

雲放射

座長： 関口 美保（東京海洋大海洋工）

- C301 佐藤 悠（弘前大院理） ISCCP D1データを用いた赤道域の雲の分類と分布の解析
- C302 中島 孝（東海大TRIC） 衛星搭載イメージャと雲レーダの複合的利用で示される雲の成長過程について
- C303 岡本 創（東北大院理） CALIOPの赤外チャンネルの校正と氷粒子による後方散乱の波長の比
- C304 平形 麻紀（東北大院理） ライダ搭載観測衛星CALIPSOによる雲粒子タイプ識別と相対湿度の関係
- C305 萩原 雄一朗（東北大院理） CloudSatとCALIPSOから求めた雲頂高度の違いについて（その2）
- C306 関口 美保（海洋大） ブロードバンド放射スキームにおける散乱過程の比較・検証

D 会場

物質循環II

座長： 梶野 瑞王（東大先端研）

- D301 須藤 健悟（名大院環境） 全球メタン濃度の過去再現シミュレーション：気候変動の影響
- D302 中島 英彰（環境研） JARE48によるPSCの特性評価とオゾン破壊量との関係
- D303 永井 智広（気象研） ライダーで観測された成層圏のバックグラウンドエアロゾルの増加
- D304 兼保 直樹（産総研） 小笠原父島における黒色炭素粒子濃度の年々変動
- D305 上田 紗也子（名大院環境） 辺戸岬で観測されたススを含む粒子の形態
- D306 大島 長（東大先端研） 東シナ海・黄海上の自由対流圏中で観測されたブラックカーボンの上方輸送過程
- D307 松井 仁志（東大先端研） ARCTAS航空機観測を用いた北極圏のブラックカーボンの発生源と輸送・除去過程の研究
- D308 鶴田 治雄（東大気候システム） ピマイ(タイ)の大気エアロゾルの化学組成と光学特性(第3報) — 乾期における化石燃料燃焼、土壌、及びバイオマス燃焼起源による影響—
- D309 梶野 瑞王（東大先端研） 東アジアにおけるエアロゾル化学組成、粒径分布、混合状態の成長過程のモデル解析

大会第4日 [5月26日(水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

A 会場

降水システムIII

座長 : 下瀬 健一 (アルファ電子/気象研)

- A401 中里 真久 (気象研) 統計力学に基づく竜巻強度分布の推定
- A402 山内 洋 (気象研) 2009年10月8日に土浦市で発生した竜巻の親雲の特徴
- A403 小林 文明 (防大地球) 庄内平野における降雪雲に伴うガスト発生時の気象要素の変化
- A404 伊藤 宏記 (京大院理) 冬季日本海上で発生したマイソサイクロンの形成過程および発達・維持機構
- A405 楠 研一 (気象研) 小型ドップラー気象レーダーを用いた突風探知システムの開発へ向けて一探知手法開発における問題点と今後の取り組み一
- A406 楠 研一 (気象研) 庄内平野に直進性の突風をもたらした気象じょう乱
- A407 下瀬 健一 (気象研) 2008年12月11日庄内平野に突風をもたらした気象じょう乱一高解像度シミュレーション一
- A408 新井 健一郎 (JR東日本) 小型ドップラー気象レーダーを用いた突風探知システムのプロトタイプの開発一複数の渦が同時に存在する事例のテスト一
- A409 西橋 政秀 (気象研) 庄内突風観測プロジェクトによる冬季雷観測 一初期観測結果一

B 会場

気候システムIV

座長 : 高藪 出 (気象研)

- B401 高藪 出 (気象研) 「温暖化影響評価のためのマルチモデルアンサンブルとダウンスケーリングの研究」 第1期研究の紹介
- B402 足立 幸穂 (筑波大生命環境) 2070年代における首都圏夏季の将来都市気候予測
- B403 日下 博幸 (筑波大計算科学) 三大都市圏を対象とした夏季気候の再現計算と将来予測
- B404 石崎 紀子 (気象研) 日本域における領域気候モデルの再現性の相互比較
- B405 楠 昌司 (気象研) 地球温暖化による梅雨期の降水強度変化の不確実性
- B406 村上 裕之 (AESTO) 20km 格子全球大気モデルで予測された地球温暖化時の北西太平洋における熱帯低気圧のトラック変化
- B407 金田 幸恵 (AESTO) 革新プログラム・チーム3「極端現象」: 領域温暖化予測実験水平解像度5km/2km非静力学モデルの降水特性
- B408 尾瀬 智昭 (気象研) 夏季におけるENSO-降水量相関とCMIP3モデルの温暖化予測
- B409 若月 泰孝 (JAMSTEC) 擬似温暖化実験手法の改良

大会第4日 [5月26日(水)] 9:30~11:30 一般口頭発表

C 会場

大気境界層I

座長：稲垣 厚至（東工大院理工）

- C401 稲垣 厚至（東工大） 屋外都市模型のキャノピー層における温度変動の空間分布
- C402 菅原 広史（防大地球） 2高度シンチロメータによる都市域のゼロ面変位推定
- C403 高橋 一之（都環科研／首都大都市環境） 夏季における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係（第4報）—静力学平衡を仮定して補正した夜間の気圧分布と風系との関係—
- C404 小松 美智（筑波大院生命環境） つくば市における夏季の気温分布の特徴—2009年8月の観測結果—
- C405 重田 祥範（岡大院自然） 街区構造の違いが及ぼす大気熱環境 —気温の空間的分散と季節特性—
- C406 菅原 広史（防大地球） 都市内緑地における冷気にじみ出しの熱収支解析
- C407 増田 仙一（京大人環） 異なる地表環境における鉛直方向への多点気象観測
- C408 岩井 宏徳（NICT） 差分吸収／ドップラーライダーによる境界層中の鉛直流統計量の推定

D 会場

大気力学

座長：三村 和男（東海大教養）

- D401 増子 友紀（東海大理） 閉ループ内熱対流実験 ～回転対称カオスを左右する初期値～
- D402 三村 和男（東海大教養） 無限自由度を持つ現実流体中の小自由度カオス～スペクトル法による考察～
- D403 横田 祥（東大理） 自由表面を持つ回転流体に生ずる多角形パターン
- D404 檜尾 守昭（気象大） 気象擾乱の自律性および多様性の由来に対する一つの解釈
- D405 納多 哲史（神戸大院理） 同期回転惑星の大気大循環とその自転角速度依存性
- D406 板野 稔久（防衛大地球海洋） 惑星渦度の水平成分を考慮した対称不安定における上下の境界条件の影響
- D407 原田 昌（京大院理） f平面二層浅水系におけるジェットからの重力波放射について—パラメータスイープ実験—
- D408 坂崎 貴俊（北大院環境） WINDASで明らかになった日本上空下部対流圏の風の日変動

大会第4日 [5月26日(水)] 13:30~15:00 一般口頭発表

A 会場

降水システムIV

座長：平沢 尚彦（極地研）

- A451 村上 正隆（気象研） 暖候期四国上空における雲・エアロゾル特性（その3）
- A452 田尻 拓也（気象研） MRI雲生成チェンバーによる雲物理実験 ダスト粒子～雲粒・氷晶発生過程（その2）
- A453 山下 克也（気象研） 人工降雨シーディング用吸湿性粒子の雲凝結核特性（その4）
- A454 久芳 奈遠美（JAMSTEC） 暖かい雨に対する凝結核散布の効果に関する数値実験（3）—ハイブリッド雲微物理モデルによる人工降雨事前評価の試み—
- A455 平沢 尚彦（極地研） 降雪粒子カウンターとシーロメータによる降雪量観測

B 会場

気候システムV

座長：野原 大輔（電中研）

- B451 萱場 互起（気象庁気候情報） 国土数値情報から推定した最近30年の土地利用の変化とそれによる気温への影響
- B452 Das Lal (JAMSTEC) Centennial scale warming over Japan: an assessment of urban influences
- B453 野原 大輔（電中研） 季節予報におけるマルチモデルアンサンブルと気候地域性の考察
- B454 横島 徳太（JAMSTEC） 気候モデルアンサンブルの評価
- B455 二宮 洗三（JAMSTEC） 梅雨期日降水量強雨の再現性についての20CCCMモデル相互比較
- B456 栗田 直幸（JAMSTEC） 水同位体トレーサーを用いた気候モデルの再現性評価

大会第4日 [5月26日(水)] 13:30~15:00 一般口頭発表

C 会場

大気境界層II

座長 : 北村 祐二 (気象研)

- C451 北村 祐二 (気象研) 安定成層下でのMYNNモデルの修正について
- C452 池田 亮作 (筑波大院生命環境) 複雑地形・都市を対象とした並列LESモデルの開発
- C453 中山 浩成 (原子力機構) 各種形状を有する建物配列群での空力的粗度特性に関するLESと実在都市への適用
- C454 竹見 哲也 (京大防災研) 気象モデルとLESモデルの結合による都市域強風変動の融合解析: 突風の予測に向けて
- C455 山口 春季 (東大海洋研) 寒気の吹き出し時の湿潤対流混合層内に発生する鉛直渦
- C456 伊藤 純至 (東大海洋研) 対流混合層内に生成される鉛直渦度のスケーリングII

D 会場

中層大気

座長 : 直江 寛明 (気象研)

- D451 清水 健作 (北大院地球環境) 温度基準ゾンデの開発と成層圏における気温計測誤差の評価
- D452 富川 喜弘 (極地研) 南半球極渦内外の対流圏界面逆転層
- D453 吉田 康平 (北大院環境) 2009年1月の成層圏突然昇温期における熱帯対流圏界層の気温変動要因
- D454 直江 寛明 (気象研) 熱帯QBOが冬季中高緯度循環に与える影響
- D455 Chen Ying-Wen (九大院理) Behaviors of Kelvin Waves in the MLT region Simulated by the Kyushu University GCM

大会第1日 [5月23日(日)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P101 金久 博忠 (気象大) β ブルームとRossby波列の解析解
- P102 小田 真祐子 (富山地方气象台) 非断熱Rossby波の解析解
- P103 山下 達也 (北大院理) 主成分凝結を伴う火星大気対流の二次元数値実験
- P104 高橋 宙 (気象研) 複数山岳におけるエアロゾル同期観測
- P105 早崎 将光 (千葉大CEReS) 山岳を迂回する黄砂輸送をもたらす気象条件
- P106 辻 美幸 (防大地球海洋) 津軽暖水のモード変化でみる三陸沖の海洋構造
- P107 山本 勝 (九大応力研) 日本海上を通過する低気圧がSSTに与える影響
- P108 村山 昌平 (産総研) 父島における大気中ラドン濃度の観測 (速報)
- P109 丹羽 洋介 (東大気候システム) 全球アジョイント・トレーサ輸送モデルの開発とそれを用いたラドンブリュームの逆追跡
- P110 弓本 桂也 (九大応力研) 全球エアロゾル輸送モデルへの四次元変分同化手法の導入
- P111 岩本 勉之 (北大低温研) AMSR-E 89 GHz を用いた北極海の高分解能薄氷厚分布の見積り
- P112 佐伯 浩介 (東北大院環境) FTIRを用いた2007年南極昭和基地における成層圏大気微量成分の観測
- P113 森本 真司 (極地研) 南極・昭和基地における大気中酸素濃度の連続観測
- P114 丸山 文男 (名大院環境) ENSOとIODの時系列に対するウェーブレットを基礎にしたマルチフラクタル解析
- P115 湯田 有希 (弘前大理工) 1990年代以降顕著になったインド洋ダイポールモードの3~4年周期振動
- P116 Muhammad Rezza(名大院環境) High Frequency Equatorial Waves within MJO envelope
- P117 村崎 万代 (気象研) 高解像度海洋モデルSSTによる日本域の気候シミュレーション
- P118 近藤 沙綾子 (奈良女子大) 東アジア付近の対流圏カラムオゾン高濃度帯の成因と季節変化に関する研究
- P119 和田 晃 (気象大) 南鳥島で観測されたCO/Rn比を用いたアジアの一酸化炭素排出量の推定
- P120 山崎 孝治 (北大院地球環境) チベット高原における融雪時期の変動が東アジアの6月の大気場に及ぼす影響
- P121 原 政之 (JAMSTEC) 気候変動による東京都市圏冬季ヒートアイランド強度に対する影響
- P122 田上 善夫 (富山大人間発達科学) 2004年における広域の不時昇温とフェーンの影響
- P123 釜堀 弘隆 (気象研) 再解析プロダクトにおける降水量の品質
- P124 濱田 篤 (地球研) 雨量計観測に基いた長期高解像度日降水量グリッドデータセットAPHRODITEの作成
- P125 根本 由紀子 (気象予報士会) 東京における冬季の気温と降水特性の関係
- P126 安中 さやか (東大気候システム) 歴史的海面水温データセットの相互比較
- P127 金丸 佳矢 (名大院環境) 熱帯・亜熱帯海洋上の係留ブイおよび衛星観測を用いた水蒸気調節メカニズムについて
- P128 服部 美紀 (JAMSTEC) 海大陸域における赤道越え北風サージと降水量の季節内変動
- P129 鈴木 恒明 (JAMSTEC) 中央アフリカにおける熱帯収束帯の季節変化特性
- P130 仲江川 敏之 (気象研) 過去千年に亘る継続的な数十年周期のグリーンランド気温変動
- P131 大島 和裕 (北大地球環境) 北太平洋の海面水温場に見られる10年規模変動と温暖化トレンドの空間パターン -CMIP3マルチ気候モデルによる実験結果を用いた解析-
- P132 秋本 祐子 (筑波大院生命環境) 日本の霧・濃霧の出現特性
- P133 石川 真奈美 (筑波大自然学類) 会津盆地で発生する霧の予測手法の開発

大会第2日 [5月24日(月)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P201 黒木 祐樹 (防衛大地球海洋) LESによるKelvin-Helmholtz波の解析
- P202 和田 章義 (気象研) 東太平洋と北西太平洋における熱帯低気圧強度と表層海洋貯熱量の関係の違いについて
- P203 坂口 晃一 (アリゾナ大) An Evaluation of NCAR CLM3.5 with Three Biogeochemical Models Under Control and Drought Scenarios in an East-Central Amazon Forest
- P204 小田 知宏 (環境研) 全球発電所データベースと夜間光データを用いた化石燃料起源CO₂排出量の全球超高解像度マッピング
- P205 眞木 貴史 (気象研) アンサンブルカルマンフィルタを用いた炭素循環解析システムの構築
- P206 財前 祐二 (気象研) 不揮発性エアロゾルの内部混合比率と揮発性シェルの厚さについて一つくぼでの夏と冬の違い
- P207 桐山 悠祐 (東京理科大学) 近年の夏季首都圏内陸部における高濃度オゾンの気象的生成要因について
- P208 高村 近子 (東北大院理) 冷温帯落葉広葉樹林における大気中二酸化炭素の酸素同位体比の季節変動
- P209 薛 光明 (岐阜大学院) 非静力学メソ気象モデルによる高山常緑針葉樹林サイト周辺の地表面フラックス解析
- P210 五十嵐 康人 (気象研) モンゴル表土中の人工放射性核種と降水量との関係から推定した黄砂発生地帯の変動
- P211 黒崎 泰典 (鳥大乾地研) マンダラゴビにおける風送ダストの発生要因
- P212 萩野谷 成徳 (気象研) チベット高原ナム湖における熱・水循環過程の研究(2)
- P213 北 和之 (茨城大理) 太陽散乱光の可視 - 紫外同時分光観測による下部対流圏オゾン量の推定
- P214 直江 寛明 (気象研) 海塩粒子が酸性化に要する時間とライフタイムとの関係
- P215 立花 義裕 (三重大生物資源) 夏のNAMの発達とブロッキング高気圧との関連
- P216 佐藤 可織 (九大応力研) 衛星搭載雲レーダ/ライダー複合利用による雲プロダクト用アルゴリズムの開発 II
- P217 石原 幸司 (気象研) 学校における地球温暖化学習についての提案
- P218 小松 麻美 (気象協会) 気象教育教材の開発と実践 その3 ~動物園の科学イベントにおける南極の立体天気図実践について~
- P219 楠 祐樹 (富山大院理工) 台風起源の定在ロスビー波束の伝播と梅雨前線への影響
- P220 荻野 慎也 (JAMSTEC) GAME-Tレーウィンゾンデ集中観測データからみたインドシナ半島内陸部における乾季の気温逆転層
- P221 高橋 宏児 (高知大院理) バングラデシュのプレモンスーン期・モンスーン期における降水の特徴
- P222 出牛 真 (気象研) 21世紀予測実験に基づいた成層圏における子午面循環の長期変動解析 (第二報)
- P223 釜江 陽一 (筑波大院生命環境) 鮮新世中期における熱帯大気循環の弱体化
- P224 阿部 学 (環境研) マルチモデルの将来気候変化場と現在気候場の関連モードを用いた将来気候変化場の推定
- P225 長谷川 聡 (環境研) MIROC4 T213大気海洋結合モデルspinup実験の熱帯低気圧活動
- P226 重里 昌 (東京海上研究所) 低解像度平均場データから推定した温暖化後の台風強度
- P227 田中 実 (気象研) 20世紀における日本の夏の気温と南シナ海モンスーン・太平洋高気圧・オホーツク海高気圧の十年スケールの関係
- P228 永野 良紀 (日大文理) チベット高気圧の張り出しパターンに関する客観解析
- P229 石崎 安洋 (気象研) 3つのベイズ的アプローチによる21世紀後半の日本の地表気温上昇量の比較
- P230 宮 由可子 (筑波大院生命環境) 日本の三大都市における過去20年間の猛暑の実態調査
- P231 高根 雄也 (筑波大院生命環境) 関東平野内陸域における夏季高温現象の統計解析
- P232 田中 博春 (東北農研) 地球温暖化気候シナリオを組み込んだ気候緩和機能評価モデル
- P233 渡辺 貴典 (首都大都市環境) 屋上緑化による気温緩和効果に関する研究 - 高空間解像度の数値シミュレーションを用いた東京23区の事例 -

大会第3日 [5月25日(火)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P301 吉田 聡 (JAMSTEC) アンサンブル再解析データを用いた爆弾低気圧の予測精度検証
- P302 山下 吉隆 (富山大院理工) 爆弾低気圧の集中化と北陸地方の大雪の発生について
- P303 北畠 尚子 (気象研) JRA-25 における温帯低気圧化台風に対するボーガスの影響
- P304 奥 勇一郎 (京大防災研) 台風による影響評価を目的とした可能最大風速・降水量の推定
- P305 吉野 純 (岐阜大院工) 台風災害ポテンシャル評価に及ぼす水平解像度の影響
- P306 瀬古 弘 (気象研) 非静力学モデルによる熱帯域の積雲対流の発生過程
- P307 佐藤 正樹 (東大気候システム) 台風0918 Melorシミュレーション:SST感度依存性
- P308 仲江川 敏之 (気象研) 気象庁気象研究所 大気-海洋結合モデル予報実験における台風発生位置の予測可能性
- P309 西田 智哉 (東大院新領域) K-Tritonブイ気象場解析
- P310 瀬戸 心太 (東大生産研) 二周波降水レーダアルゴリズムに用いる繰り返し後退法の改良
- P311 川村 誠治 (NICT) 改良型バイスタティック降雨レーダシステム—シミュレーション検討—
- P312 杉谷 茂夫 (NICT) 改良型バイスタティック降雨レーダシステム —受信機開発と実証実験—
- P313 脇阪 洋平 (京大生存研) GNU Radioを用いたウィンドプロファイラー用デジタル受信機の開発
- P314 関澤 信也 (NICT) 低高度における強力エコー受信のためのSpano符号の振幅制御法の提案
- P315 関 隆則 (気象予報士会) 台風0909の10分降水量数分布の特徴
- P316 吉田 翔 (筑波大院生命環境) メソスケール対流系の寿命・降雨強度と下層風の風の収束の関係—2008年8月の関東地方を対象に—
- P317 石丸 友紀乃 (筑波大院生命環境) 局地前線に伴うバックビルディング型豪雨
- P318 出世 ゆかり (名大地球水循環) 台風0918号の中心付近で局所的な落雷をもたらした降水雲の特性
- P319 鈴木 賢士 (山口大) 梅雨期沖縄でのビデオゾンデ観測でみられた霰の形状について
- P320 伊関 一悟 (山口大農) 新潟・柏崎における2009年度冬季ビデオゾンデ観測の概要
- P321 小池 克征 (いであ) JMANHM_1kmデータを用いたダム流域における降雪気象因子の特定に関する研究
- P322 橋本 明弘 (気象研) 山岳性降雪雲に関する雲解像モデルの予想特性
- P323 大竹 秀明 (気象研) 山岳性降雪雲内における航空機観測と雲解像モデルとのvalidation
- P324 折笠 成宏 (気象研) ドライアイスシーディングに伴う山岳性降雪雲の微物理構造の変化 (その3)
- P325 豊田 友英 (筑波大院生命環境) 冬季降雪雲に対する数値モデルを用いた最適シーディング法についての研究
- P326 道本 光一郎 (防衛大) 気象レーダー利用による雷放電予測法の開発 (第2報)
- P327 古橋 奈々 (筑波大学自然科学類) 真夏日の午後に東京23区で観測された短時間強雨の実態調査
- P328 縄田 恵子 (筑波大院生命環境) WRFを用いた首都圏の降水シミュレーション—都市の降水へのインパクト調査—
- P329 稲村 友彦 (首都大都市環境) 東京における強雨発生に与える都市の影響に関する研究 —アンサンブル実験を用いて—
- P330 栗田 進 (気象研) 新しい都市境界層の考え方—都市スケールと街区スケールを結びつけるもの—
- P331 小田 僚子 (NICT) 東京都小金井市上空の境界層高度日変化の推定
- P332 田中 真也 (防衛大地球海洋) 分散法を用いた銀座街区周辺におけるゼロ面変位の推定
- P333 小笠原 拓也 (気象協会) ヒートアイランド現象の観点から見た館林市街地の温熱環境

大会第4日 [5月26日(水)] 11:30~12:30 ポスター・セッション

- P401 北畑 明華 (筑波大院生命環境) 二つ玉低気圧の気候学的調査
- P402 猪上 淳 (RIGC) 北極海上のブロッキング高気圧沿いに発生したポーラーローの観測
- P403 瓜田 真司 (首都大都市環境) 土壌雨量指数を用いた土砂災害発生危険性の空間分布に関する研究
- P404 三隅 良平 (防災科研) レーダ雨量を用いた土砂災害危険域評価—都市域を中心に—
- P405 中村 誠臣 (気象研) 2008年8月9日に甲信地域で発生した不安定降水のNHMによる再現実験
- P406 瀬古 弘 (気象研) アンサンブルと同化手法を用いた局地豪雨再現実験
- P407 伊賀 晋一 (JAMSTEC) 熱帯または局所領域で細かいストレッチ型全球三角格子
- P408 藤吉 康志 (北大低温研) 長崎市池島における風と波と鳥の観測(WINPOD-L) (その1) —観測概要と途中経過—
- P409 鈴木 修 (気象研) IQデータを使った高解像化メソサイクロン検出アルゴリズム
- P410 徳野 正己 (気象研) 衛星3.8 μ m帯チャンネルによる積乱雲の特徴
- P411 西脇 夏樹 (筑波大院生命環境) ステレオ写真測量及びKa バンドレーダによる積乱雲の発生・発達過程の観測
- P412 佐藤 晋介 (NICT) 低騒音型RASS用アレイスピーカーシステムの開発
- P413 青梨 和正 (気象研) 非球形固体降水粒子のマイクロ波特性の導入によるGSMaP前方計算法の改良
- P414 古澤 文江 (名大地球水循環) 地表面射出率の降水推定への応用と地表面温度導出について
- P415 田中 博春 (東北農研) フィールドモニタリングカメラシステムを利用した積雪深の観測
- P416 朽木 勝幸 (気象研) 衛星と地上放射計それぞれから抽出された積雪物理量の比較
- P417 藤山 隆 (防衛大地球海洋) 降雨に伴う土壌水分量の変化とマイクロ波温度の関係
- P418 田上 雅浩 (熊本大院自然) 熊本における降水同位体比の時系列解析
- P419 佐野 哲也 (山梨大院医学工学総合研究) X-バンド二重偏波ドップラーレーダーで観測された夏季に短時間の豪雨をもたらせた降水システムの構造
- P420 鈴木 真一 (防災科研) Xバンドマルチパラメータレーダ観測による雹の偏波パラメータ特性
- P421 高橋 暢宏 (NICT) TRMM/PRの地表面エコーを用いた降雨の非一様性の評価
- P422 中井 専人 (防災科研・雪氷) 高分解能降雪強度観測によるZc変動の評価
- P423 中里 真久 (気象研) Xバンド及びKaバンドレーダーによる雲微物理量導出法の比較
- P424 川合 秀明 (気象庁数値予報) 海洋性境界層雲と大気場の関係
- P425 井口 享道 (メリーランド大ESSIC) WRF-SBMによるlake-effect snowstorm再現実験
- P426 斎藤 篤思 (気象研) 航空機搭載用氷晶核測定装置による観測
- P427 中村 佳敬 (阪大院工) 非静力学モデルを用いた雷雲内電荷分布の推定
- P428 村松 貴有 (富山大理) 日本におけるダウンバースト発生の環境場と予測可能性
- P429 高谷 美正 (気象研) 2007年4月28日東京湾岸地帯で発生した突風 Bow Echo の解析的研究
- P430 佐々 浩司 (高知大理) 土佐湾で発生したマイソサイクロンのレーダー観測
- P431 佐々 浩司 (高知大理) 庄内平野における突風の統計特性
- P432 河合 克仁 (防衛大地球海洋) 庄内平野における降雪雲に伴うガストの事例解析
- P433 片境 泰聡 (首都大 都市環境) 風の鉛直シアによる臨界層がまつぼり風吹走に与える影響に関する数値実験

講演者索引

< A >

Abe Manabu (阿部 学)	P224
Adachi Sachiho (足立 幸穂)	B402
Akimoto Yuko (秋本 祐子)	P132
Aoki Teruo (青木 輝夫)	B104
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	C103
Aonashi Kazumasa (青梨 和正)	P413
Arai Ken-ichiro (新井 健一郎)	A408

< C >

Chen Ying-wen	D455
Chikira Minoru (千喜良 稔)	D161

< D >

Das Lalu	B452
Deushi Makoto (出牛 真)	P222

< E >

Eito Hisaki (永戸 久喜)	A203
---------------------	------

< F >

Fudeyasu Hironori (筆保 弘徳)	C203
Fujibe Fumiaki (藤部 文昭)	B207
Fujii Yosuke (藤井 陽介)	C155
Fujiyama Takashi (藤山 隆)	P417
Fujiyoshi Yasushi (藤吉 康志)	P408
Furuhashi Nana (古橋 奈々)	P327
Furuzawa Fumie (古澤 文江)	D165
Furuzawa Fumie (古澤 文江)	P414

< G >

Goto Daisuke (五藤 大輔)	D201
----------------------	------

< H >

Hagihara Yuichiro (萩原 雄一朗)	C305
Haginoya Shigenori (萩野谷 成徳)	P212
Hamada Atsushi (濱田 篤)	P124
Hara Masahiro (原 昌弘)	C105
Hara Masayuki (原 政之)	P121
Harada Masashi (原田 昌)	D407
Hasegawa Akira (長谷川 聡)	P225

Hashimoto Akihiro (橋本 明弘)	P322
Hattori Miki (服部 美紀)	P128
Hayasaki Masamitsu (早崎 将光)	P105
Higashi Kuniaki (東 邦昭)	D105
Hinokio Moriaki (檜尾 守昭)	A309
Hinokio Moriaki (檜尾 守昭)	D404
Hirakata Maki (平形 麻紀)	C304
Hirasawa Naohoko (平沢 尚彦)	A455
Hirota Nagio (廣田 渚郎)	D160
Hori Masatake (堀 正岳)	B306
Hosaka Masahiro (保坂 征宏)	B105

< I >

Iga Shin-ichi (伊賀 晋一)	B101
Iga Shin-ichi (伊賀 晋一)	P407
Igarashi Yasuhito (五十嵐 康人)	P210
Iguchi Takamichi (井口 享道)	P425
Ikeda Ryosaku (池田 亮作)	C452
Imada Yukiko (今田 由紀子)	A101
Inagaki Atsushi (稲垣 厚至)	C401
Inamura Tomohiko (稲村 友彦)	B154
Inamura Tomohiko (稲村 友彦)	P329
Inoue Jun (猪上 淳)	P402
Iseki Kazunori (伊関 一悟)	P320
Ishibashi Toshiyuki (石橋 俊之)	C104
Ishihara Koji (石原 幸司)	P217
Ishihara Masahito (石原 正仁)	A305
Ishikawa Manami (石川 真奈美)	P133
Ishimaru Yukino (石丸 友紀乃)	P317
Ishizaki Noriko (石崎 紀子)	B404
Ishizaki Yasuhiro (石崎 安洋)	P229
Ishizuka Masahide (石塚 正秀)	D206
Itano Toshihisa (板野 稔久)	D406
Ito Akinori (伊藤 彰記)	D204
Ito Hiroki (伊藤 宏記)	A404
Ito Junshi (伊藤 純至)	C456
Iwai Hironori (岩井 宏徳)	C408
Iwamoto Katsushi (岩本 勉之)	P111
Iwao Koki (岩尾 航希)	B202
Iwasaki Hiroyuki (岩崎 博之)	A301
< J >	
Jin Yoshitaka (神 慶孝)	D208

Juri Akira (重里 昌)	P226
-------------------	------

< K >

Kajino Mizuo (梶野 瑞王)	D309
Kamae Youichi (釜江 陽一)	P223
Kamahori Hirotaka (釜堀 弘隆)	P123
Kanada Sachie (金田 幸恵)	B407
Kanada Sachie (金田 幸恵)	C205
Kanehisa Hirotada (金久 博忠)	P101
Kanemaru Kaya (金丸 佳矢)	P127
Kaneyasu Naoki (兼保 直樹)	D304
Kang Ahrum (康 アルム)	D166
Kataakai Hiroaki (片境 泰聡)	P433
Kato Kuranoshin (加藤 内藏進)	B201
Kato Teruyuki (加藤 輝之)	A204
Kawabata Takuya (川畑 拓矢)	C102
Kawai Hideaki (川合 秀明)	P424
Kawai Katsuhito (河合 克仁)	P432
Kawamura Seiji (川村 誠治)	P311
Kawamura Takuya (川村 拓也)	A206
Kawana Kaori (川名 華織)	D203
Kayaba Nobuyuki (萱場 互起)	B451
Kimoto Masahide (木本 昌秀)	C156
Kimura Fujio (木村 富士男)	B155
Kinoshita Masashi (木下 仁)	A307
Kiriya Yusukey (桐山 悠祐)	P207
Kita Kazuyuki (北 和之)	P213
Kitabatake Naoko (北畠 尚子)	P303
Kitahata Haruka (北畑 明華)	B308
Kitahata Haruka (北畑 明華)	P401
Kitamura Yuji (北村 祐二)	C451
Kobayashi Fumiaki (小林 文明)	A403
Koike Katsuyuki (小池 克征)	P321
Koishi Kazunari (小石 和成)	D162
Komatsu Asami (小松 麻美)	P218
Komatsu Michi (小松 美智)	C404
Kondo Sayako (近藤 沙綾子)	P118
Kosaka Yu (小坂 優)	B302
Kosaka Yu (小坂 優)	B303
Kuba Naomi (久芳 奈遠美)	A454
Kuchiki Katsuyuki (朽木 勝幸)	P416
Kurita Naoyuki (栗田 直幸)	B456
Kurita Susumu (栗田 進)	P330

Kuroki Yuki (黒木 祐樹) P201
 Kurosaki Yasunori (黒崎 泰典) P211
 Kusaka Hiroyuki (日下 博幸) B403
 Kusunoki Kenichi (楠 研一) A405
 Kusunoki Kenichi (楠 研一) A406
 Kusunoki Shoji (楠 昌司) B405
 Kusunoki Yuuki (楠 祐樹) P219
 Kuwano-yoshida Akira (吉田 聡) P301

< M >

Maki Takashi (真木 貴史) P205
 Maruyama Fumio (丸山 文男) P114
 Mashiko Wataru (益子 渉) C204
 Masuda Sen-ichi (増田 仙一) C407
 Masuko Tomonori (増子 友紀) D401
 Masunaga Hirohiko (増永 浩彦) D159
 Matsueda Mio (松枝 未遠) C106
 Matsui Hitoshi (松井 仁志) D307
 Matsuo Kenichi (松尾 健一) B203
 Michimoto Koichiro (道本 光一郎) P326
 Mikami Masao (三上 正男) D205
 Mimura Kazuo (三村 和男) D402
 Minobe Shoshiro (見延 庄士郎) A103
 Minobe Shoshiro (見延 庄士郎) A106
 Misumi Ryohei (三隅 良平) P404
 Miya Yukako (宮 由可子) P230
 Miyakawa Tomoki (宮川 知己) D154
 Miyamoto Yoshiaki (宮本 佳明) C206
 Mochizuki Takashi (望月 崇) C157
 Mori Masato (森 正人) B102
 Morimoto Shinji (森本 真司) P113
 Murakami Hideyo (村上 英世) B209
 Murakami Hiroyuki (村上 裕之) B406
 Murakami Masataka (村上 正隆) A451
 Murakami Shigenori (村上 茂教) B159
 Muramatsu Takanari (村松 貴有) P428
 Murata Akihiko (村田 昭彦) C202
 Murayama Shohei (村山 昌平) P108
 Murazaki Kazuyo (村崎 万代) P117

< N >

Nagai Tomohiro (永井 智広) D303
 Nagano Yoshinori (永野 良紀) B204
 Nagano Yoshinori (永野 良紀) P228

Nakaegawa Toshiyuki (仲江川 敏之) P130
 Nakaegawa Toshiyuki (仲江川 敏之) P308
 Nakai Sento (中井 専人) A207
 Nakai Sento (中井 専人) P422
 Nakajima Hideaki (中島 英彰) D302
 Nakajima Takashi (中島 孝) C302
 Nakamura Kozo (中村 晃三) A205
 Nakamura Masaomi (中村 誠臣) P405
 Nakamura Yoshitaka (中村 佳敬) P427
 Nakatsuru Takahiro (中津留 高広) B152
 Nakayama Hiromasa (中山 浩成) C453
 Nakazato Masahisa (中里 真久) A401
 Nakazato Masahisa (中里 真久) P423
 Nakazawa Tetsuo (中澤 哲夫) C154
 Naoe Hiroaki (直江 寛明) D454
 Naoe Hiroaki (直江 寛明) P214
 Nasuno Tomoe (那須野 智江) D155
 Nawata Keiko (縄田 恵子) P328
 Nemoto Yukiko (根本 由紀子) P125
 Ninomiya Kozo (二宮 洗三) B455
 Nishida Tomoya (西田 智哉) P309
 Nishihashi Masahide (西橋 政秀) A409
 Nishikawa Hatsumi (西川 はつみ) A105
 Nishiwaki Natsuki (西脇 夏樹) P411
 Niwa Yosuke (丹羽 洋介) P109
 Niwano Masashi (庭野 匡思) B103
 Noda Satoshi (納多 哲史) D405
 Nohara Daisuke (野原 大輔) B453

< O >

Oda Mayuko (小田 真祐子) P102
 Oda Ryoko (小田 僚子) P331
 Oda Tomohiro (小田 知宏) P204
 Ogasawara Takuya (小笠原 拓也) P333
 Ogawa Fumiaki (小川 史明) A102
 Ogino Shin-ya (荻野 慎也) P220
 Ohhigashi Yuji (大東 雄二) D104
 Ohtake Hideaki (大竹 秀明) P323
 Okamoto Hajime (岡本 創) C303
 Okamoto Hiroki (岡本 宏樹) A202
 Oku Yuichiro (奥 勇一郎) P304
 Onogi Shigeru (小野木 茂) D101
 Oouchi Kazuyoshi (大内 和良) D152
 Orikasa Narihiro (折笠 成宏) P324
 Osada Kazuo (長田 和雄) D207

Ose Tomoaki (瀬瀬 智昭) B408
 Oshima Kazuhiro (大島 和裕) P131
 Oshima Naga (大島 長) D306
 Otsuka Shigenori (大塚 成徳) D163

< R >

Rezza Muhammad P116
 Rikiishi Kunio (力石 國男) B309

< S >

Saeki Kosuke (佐伯 浩介) P112
 Saito Atsushi (齋藤 篤思) P426
 Saito Kazuo (斎藤 和雄) C152
 Sakaguchi Koichi (坂口 晃一) P203
 Sakazaki Takatoshi (坂崎 貴俊) D408
 Sano Tetsuya (佐野 哲也) P419
 Sassa Koji (佐々 浩司) P430
 Sassa Koji (佐々 浩司) P431
 Satake Yuya (佐竹 祐哉) C209
 Sato Kaori (佐藤 可織) P216
 Sato Naoki (佐藤 尚毅) D158
 Satoh Masaki (佐藤 正樹) P307
 Satoh Shinsuke (佐藤 晋介) P412
 Satou Yu (佐藤 悠) C301
 Sawada Masahiro (沢田 雅洋) B153
 Seki Takanori (関 隆則) P315
 Sekiguchi Miho (関口 美保) C306
 Sekizawa Shinya (関澤 信也) P314
 Seko Hiormu (瀬古 弘) P306
 Seko Hiormu (瀬古 弘) P406
 Seto Shinta (瀬戸 心太) A208
 Seto Shinta (瀬戸 心太) P310
 Shigeta Yoshinori (重田 祥範) C405
 Shimizu Kensaku (清水 健作) D451
 Shimizu Shingo (清水 慎吾) C101
 Shimose Ken-ichi (下瀬 健一) A407
 Shoji Yoshinori (小司 慎教) D102
 Shusse Yukari (出世 ゆかり) P318
 Singh Prasamsa B206
 Sudo Kengo (須藤 健悟) D301
 Sugawara Hirofumi (菅原 広史) C402
 Sugawara Hirofumi (菅原 広史) C406
 Sugimoto Shiori (杉本 志織) B157
 Sugitani Shigeo (杉谷 茂夫) P312
 Suzuki Kenji (鈴木 賢士) P319

Suzuki Osamu (鈴木 修) P409
 Suzuki Shin-ichi (鈴木 真一) P420
 Suzuki Tsuneaki (鈴木 恒明) P129

< T >

Tachibana Yoshihiro (立花 義裕) P215
 Tagami Yoshio (田上 善夫) P122
 Tajiri Takuya (田尻 拓也) A452
 Takahashi Koji (高橋 宏児) P221
 Takahashi Hiroshi (高橋 宙) P104
 Takahashi Kazuyuki (高橋 一之) C403
 Takahashi Nobuhiro (高橋 暢宏) P421
 Takamura Chikako (高村 近子) P208
 Takane Yuya (高根 雄也) A304
 Takane Yuya (高根 雄也) P231
 Takatama Kohei (高玉 孝平) A104
 Takaya Yoshimasa (高谷 美正) P429
 Takayabu Izuru (高藪 出) B401
 Takemi Tetsuya (竹見 哲也) C454
 Takemura Toshihiko (竹村 俊彦) D202
 Tamura Toru (田村 徹) B304
 Tanaka Hiroharu (田中 博春) P232
 Tanaka Hiroharu (田中 博春) P415
 Tanaka Hiroshi (田中 博) B307
 Tanaka Minoru (田中 実) P227
 Tanaka Shinya (田中 真也) P332
 Taniguchi Hiroshi (谷口 博) C153
 Tanoue Masahiro (田上 雅浩) P418
 Tochimoto Eigo (栃本 英伍) A306
 Tokuno Masami (徳野 正己) P410
 Tomikawa Yoshihiro (冨川 喜弘) D452
 Toyoda Tomohide (豊田 友英) P325
 Tsuchiya Chikara (土屋 主税) D153
 Tsuguti Hiroshige (津口 裕茂) A303
 Tsuji Miyuki (辻 美幸) P106
 Tsunematsu Nobumitsu (常松 展充) D209
 Tsuruta Haruo (鶴田 治雄) D308
 Tsutsumi Yukitomo (堤 之智) B205

< U >

Ueda Hiroaki (植田 宏昭) B151
 Ueda Hiroaki (植田 宏昭) B156
 Ueda Sayako (上田 紗也子) D305
 Ueno Kenichi (上野 健一) B158

Unuma Takashi (鵜沼 昂) A302
 Urita Shinji (瓜田 真司) P403
 Ushio Tomoo (牛尾 知雄) A209

< W >

Wada Akira (和田 晃) P119
 Wada Akiyoshi (和田 章義) C207
 Wada Akiyoshi (和田 章義) P202
 Wakazuki Yasutaka (若月 泰孝) B409
 Wakisaka Youhei (脇阪 洋平) P313
 Watanabe Akira (渡邊 明) A201
 Watanabe Shingo (渡辺 真吾) B106
 Watanabe Takanori (渡辺 貴典) P233

< X >

Xue Guangming (薛 光明) P209

< Y >

Yagai Isamu (谷貝 勇) B208
 Yamada Yoshinori (山田 芳則) A308
 Yamaguchi Haruki (山口 春季) C455
 Yamamoto Masaru (山本 勝) P107
 Yamane Shozo (山根 省三) C151
 Yamasaki Masanori (山岬 正紀) D151
 Yamashita Koji (山下 浩史) C208
 Yamashita Tatsuya (山下 達也) P103
 Yamashita Yoshitaka (山下 吉隆) P302
 Yamasita Katsuya (山下 克也) A453
 Yamauchi Hiroshi (山内 洋) A402
 Yamaura Tsuyoshi (山浦 剛) B301
 Yamazaki Akira (山崎 哲) B305
 Yamazaki Koji (山崎 孝治) P120
 Yasunaka Sayaka (安中 さやか) P126
 Yokohata Tokuta (横島 徳太) B454
 Yokoi Satoru (横井 覚) C201
 Yokota Sho (横田 祥) D403
 Yokoyama Chie (横山 千恵) D164
 Yoneyama Kunio (米山 邦夫) D157
 Yoshida Kohei (吉田 康平) D453
 Yoshida Syo (吉田 翔) P316
 Yoshikawa Eiichi (吉川 栄一) D103
 Yoshino Jun (吉野 純) P305
 Yoshizaki Masanori (吉崎 正憲) D156
 Yuda Yuki (湯田 有希) P115

Yumimoto Keiya (弓本 桂也) P110

< Z >

Zaizen Yuji (財前 祐二) P206